

<お知らせ --- その他のこと>

5月5日(月・祝)と6月29日(日)PM6~10時 下記の音楽室においてコンサートの様なものをやりたいと思っています。<公民館運動>のあいまをぬって公共施設を利用するわけですが、別に<公運>に対抗するわけではなく、個人的なせよかなものとしてやりたい。もし何かやりたい人がいたら連絡下さい。音はわりと大きく出せるように、ピアノしかないので、マイク、アンプなど必要な人は各自持参になります。人数をある程度制限したいのでなるべく早く申し込み下さい。また、チラシはつくらず、入場料もタダが100円くらいにしたいので、気軽に遊びに来て下さい。あ、それで一応一般公募は5月で、6月の方は時間もあるのでもう少し考えてみようと思っています。最近あまり音沙汰ない人に会ってみたい気もするし、---

昔にくらべて人と会うことも多くなり人と話すことも少しはできるようになった。<P.E>のおかげ? 年のせい? 僅し物によく行くようになったこともある。といったことで(何か)3月は<ひな祭り>女性P=メ、フィルム>P=メといえば、カワイイとか美しいとかという一般的な印象で、そういうたあいなものが多かったなかで、梅須賀冬子作品はパーカがあった。浅野優子作品は技術的には感じはしけれど、<公運>幹事だったので、落着いて見れなかったけれど、客も多かったし(普通のおじさんのような人が4人いたのよ)出演者も新しい顔があり、パフォーマンスに富んでいて良かったと思う。それでつまらなかったといわれればそれだけのことで、別に立派なこと、凄いこと、完成されたことなどを評価しているのではないのだからと僕は思う。わり回以降はそろそろ東京脱出しては、名古屋、関西... 沖縄まで行きたい。

●交通

- 東横線 祐天寺駅下車 徒歩5分
- バス 恵比寿—祖師ヶ谷大蔵 (祐天寺) 渋谷—洗足 (目黒税務署) 目黒—三軒茶屋 (前下車2分)

目黒区立上目黒住区センター  
〒153 目黒区祐天寺2-6-6  
☎ 793-1102  
※毎月第一月曜日休館

・ブック・メディア・パッケージ 1985

たんたんじわつとふい  
¥980 送料当大負担

# NIOH DACHI CLUB

## 仁王立ち倶楽部

1986  
3  
創刊号

VOL.1 NO.9

300 yen

おもしろいことつけあます

- 1 竹田賢一…私の上昇志向ーへへ
- 4 今泉泉…絵描き共のぼんやりな暮らし(これの前説)
- 6 トーバー…「結婚」前後の断片
- 8 南原正司…「舞踏を巡る」の断片 4 藤城の聖堂に舞い見える
- 10 シゲマ…第3列通信の「パフォーマー諸君！」
- 12 福本健修…光東の国からーうたたね草紙
- 14 なつめひつな…「舞踏 その血友病的嫉妬」
- 16 まきしのぶ…現代美術家つづへへ 吉永裕若への手紙ーその作品をめぐって
- 18 田中アジ…「イン・カシユ・ラン放送」 扉をめぐる音とことば
- 20 はらいかわ…「まきまき」 飯谷まきまき展 隅川編 座落子の日記
- 24 田中道子
- 26 西野修
- 28 久住重世
- 30 石川正一
- 32 山崎克己
- 34 前田珠…「地下鉄幻想」
- 39 仁王立ち倶楽部の発祥
- 40 編集後記

ILLUSTRATION THEATER vol.5

送料 ¥170  
あと払可  
先払可

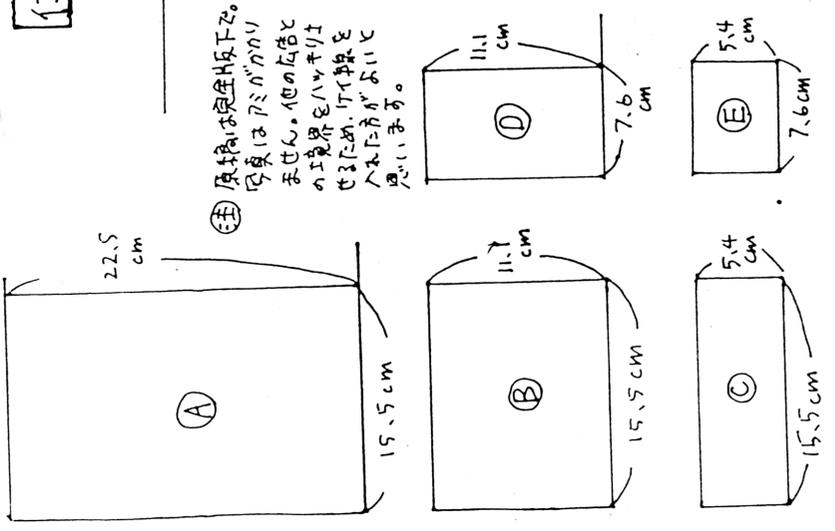
共に〒121 足立区伊興町前沼1210 福本健修まで

### 仁王立ち倶楽部広告要項

比 例

2000円で  
自分の広告ができるわけ  
だ！！

TYPE	SIZE (cm)	料金
Ⓐ	22.5 x 15.5	16000円
Ⓑ	11.1 x 15.5	8000円
Ⓒ	5.4 x 15.5	4000円
Ⓓ	11.1 x 7.6	4000円
Ⓔ	5.4 x 7.6	2000円



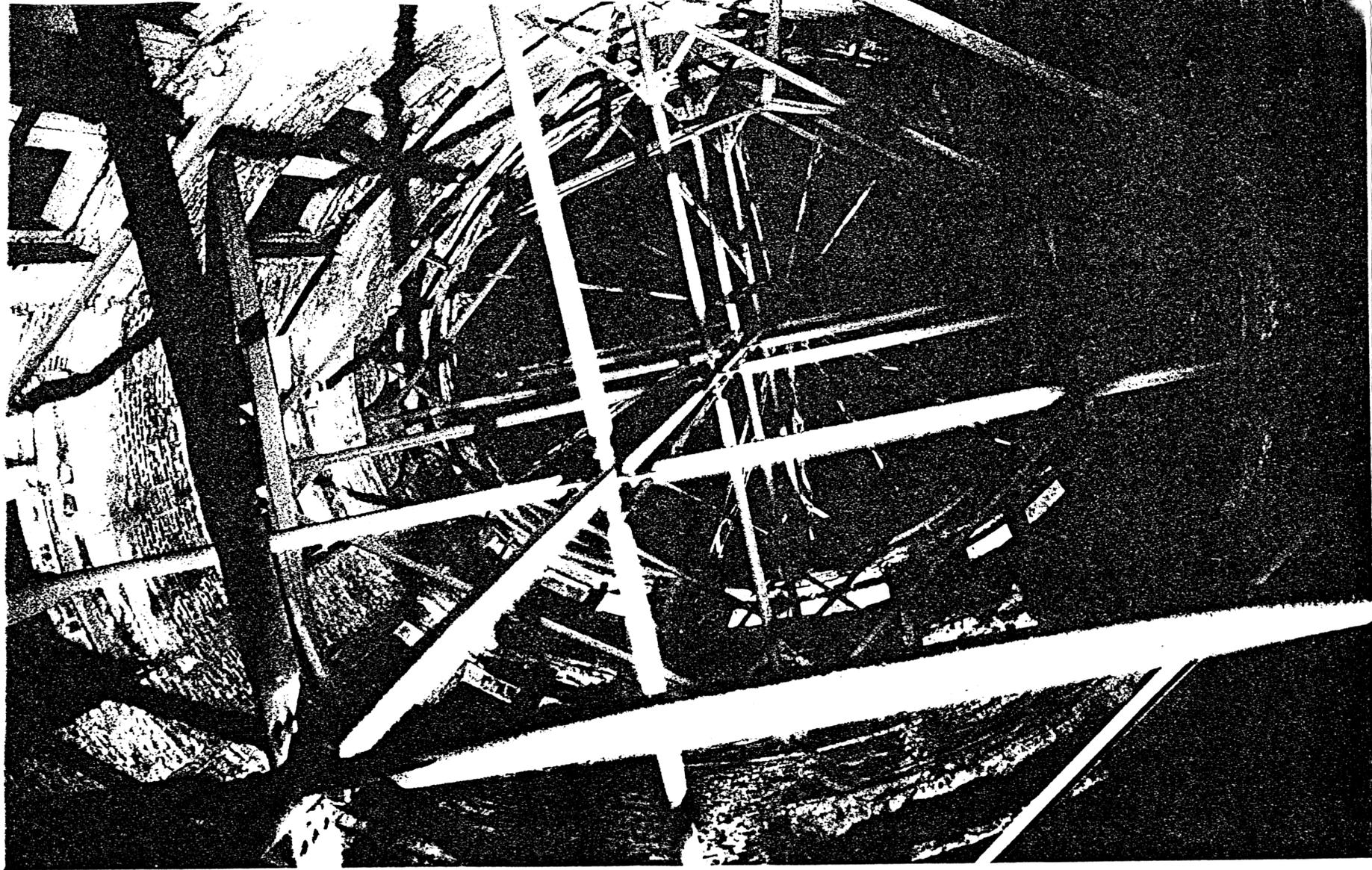
① 原稿はA4版下迄。  
写真はA3版の1/2  
写真以外の広告と  
おせん。他の広告の  
上段をハッキリし  
せたい。行間等を  
入念にさがりよいて  
ほしい。

仁王立ち倶楽部は 同時代の音楽・美術・舞踏(踊り)表現・生き方に 真面目に取り組む人たちのための「集大成」であることを目標として 発行される。小サイズのメディアです。500部発行で 44ページに10刷りサイズはB5判です。広告には表2, 表3, 表4に掲載します。同封しました見本を 御覧の上、御検討下さい。注文は下記へお願ひします。

〒181 東京都三鷹市深大寺3807 (TEL 0422-32-9419) 荒井真一  
広告料 取リ越し 三菱銀行(三友支店) 222-4854462



NANKING



ATOMIC BOMB DOME FROM INSIDE P.S. 85



3

ら (そんなときないかも しれないけど) という  
おいのりをするのを見てもたからた。突然、裸  
になつて 月宛に 傷をつけて 血をその辺に  
こぼりまいたり。 妙なおふたつと その辺に  
貼りまふたり。 香をたいたり。 大声あげ  
たり... するんた、たらまたいいけど。 一番  
こわいのは 本当に 効果があることだろう。  
(恥かしい話だが、私は 前にはクリシュナ教  
の女は ¥500 とられたり (街頭で)、 旅  
行案内の 街頭で 手に つかかたりした  
ことがあるのだ!! 笑つて下さい。 高  
校生の時でした。) 友人に、会う度に  
色々な宗教に凝ってるやつがいる。 バクワン  
たり、GLA たり、相似象 (字がちがうか  
な?) たり、LFO たり...。 自然食が  
何だ、とい、ていうらに 結核に な、ちゃ、たか  
治、て、またそんなことある、私は 宗教

④ には 大変 興味がある、考えるのは大好き  
だし。 自分が何か入信して 体験してみ  
るべきかと、とも思うのだが。 それ以上に、宗教  
に関わる時の人間の精神状態や思考の  
態度の方に 興味があるのだ。 この姿勢  
は 混同されてはならない。

その後、例の女性はやらないけど。 もし  
あの時、おいのりをさせて、特になにきなく  
帰らせたりして。 次の日、二人でやってみて。 その  
次の日、4人でやってみて という友人は、い、り、  
ついに 集会場に ち、ち、た、ら、これまた  
こわいだろうなあ。(2"の 詩は 昔の GISEO  
の 詩にあるオネ。) (それから 家に 外部から  
人がおりにして、ま、た、ら、な、ちゃ、う、詩は 安  
部公房に ありましたネ。 私の知人で、ア、  
ク、オ、ウ、と、言、て、い、た、女、が、い、た。)  
そんなと、ころ、だ。 次回は PSE の ビ、エ、と、か、き  
たいと思つてます。 よろしく。

「1985」で、河合さんが日記をつけていた。とあるのを見て、なるほど、と思いました。

いつ頃から日記を悔戔の対象とするようになったか、父親がきちょうめんに日記をつける人で、それが原因となって「知」の反叛概念のようになってしまっていた。でも考えてみれば、父は教養の無い（小卒。ただし、向学心のある人で、知識は豊かだった。）わりには頭のいい人だった。

日記に対するこうした態度が変わったのは、何と言っても竹内好を知ったからで、こうした（僕にとって）巨人の生活態度は見習うべきものとして観念される。昔を想うと信じられぬいけれど、河合さんの事もあって、日記でもつけてみようか、などと考えていたりする。

ある本屋でアルバイトをしていた時、経営者のお荷物として、離れ小島のような自由があって、連絡ノートにかなり個人的な事を書き合うようようになった。小学校の班ノートのようなものだけれど、ほぼ毎日、規則的に書きつける事は、自分の毎日々々のリズムを容観視できるような所があって、考えがいかにか情緒的に左右されるか、という事の反省に役立った。

「1985」に対する批判は（これは21連鎖芸、10ミニッツとからんどのイベントに対する考え方への批判に通ずるものですが）、「1984」

「1986」の存在（不在）に結局は行き着くと思います。これがメディアなら、メディアに必ずしもレトリックがある。それを圧殺する方

方向に霜田イズムはある。本音主義のよう。これは公表される事を期待して「1985」の感想ハガキにも書いたのだけれど、僕はできるだけ自分を隠してゆきたい。平明な自分が精密なレトリックであるような存在に自分を育てたい。そうした人間にとって、本音主義（何が本音か、は周囲が決める）は耐えがたい。

僕は霜田さんを、一方的に「師」のようなものとして思っていて、弟子としては批判を失ってはならない、というような考えで言いたい事を言って来た。今もその気分は同じです。しかし、霜田さんのアイデンティティに介入するような、ファナティックなリアクションを呼び起こすようなことは避けた。幸い、公民権は僕にとっても霜田さんにとってもある程度の容観性を持ち得ていて、ここを中心に見ていこう、批判もしていい、と、思っていたのですが…

高校中退までの情緒的な時代が、今ある自分を「余生」と見るような気分を植えつけていて、老人の感性にすぐくあこがれます。ゆったり、ほのほの、とただ死ぬまでの間、息をして物を見えおしゃべりする。

これは受動的のみばかりではなく、ファナティズムに対して、強い抵抗力を持つように思う。パッと変りはしないけれど、じょじょに、確実に変わっていく。ゆっくりだから考える時間もあるし、好悪のバイオリズムに従ってあえて目を閉ざしてしまうほどのものでもない。

公民権の各回の内容が、とりたてて言うほどのものでもないにしても（これは制約にたい

に奥手ありありですか)、続けることに意味はある。自分とは別の所で働いているリズムは、自分を相対視するのに、充分な根拠所となるように思います。

中矢 誠

P.E は「手紙のようなもの」だそうですが、そういう文体(?)が苦手なので、これで許して下さい。



かせつれえべる 死守置所  
 東京 7-117264  
 志願野市西久保 2-2-13 佐々木荘

- △ 産産組線人のカホ  
 テー778。・ポラポのP  
 (C16・¥300 77170)。
- ▽ 9-21 (C46・¥1200 77  
 77)。
- △ X子ア (丘日  
 売)。
- ▽ our Xray Xe-  
 xy (C16・¥400 77  
 170 D's レベル)。
- △ P.  
 resending (D'sレ  
 ールより丘日売)が  
 あり、1個のカホ  
 テー778。
- ▽ フラバート  
 シュ  
 ック (品切れ)。
- △ 管理  
 社会 (同)。
- ▽ レホ  
 ジ  
 ムニエ  
 ション (C60・¥47  
 0 77170) 詩集に  
 。
- ▽ うま  
 の社と  
 1111 (C  
 ¥500 777) があり  
 ます。



対処不可能。



(原画: 中矢誠)



私たちは何でも忘れず。

## 《公民館運動第6回》のお知らせ

☆日時：昭和61年6月7日(土) 午後6時～9時

☆会場：中野区勤労福祉会館 多目的ホール(国営中野駅南口より徒歩4分)

☆実演参加の申込みは一応4月19日(土)までとしますが、当日の時間的な制約も考えに入れて、適当なところで締め切らざるを得ないでしょう。

☆参加申込・問合せは 藤本和男 〒166 杉並区高円寺北3-22-8 藤本ハウス2F ☎03-310-5842 まで。



☆文章に関しては、「感情剥き出し」なんてのはつまらない—と言うか、そもそも感情=文章なんてことはあり得ないのだから、かりに「感情剥き出し」をやるにしても、それは文章上のテクニックの一つとしてやるべきことだと思います。「言魂派」はそういうのを嫌うかも知れないけど、彼らの多くが信奉するシリーズだって、自分の作品は文体がすべてだ、みたいなこと言ってるよね。言語活動は—少なくとも物を書くという行為は、程度や質の差こそあれ、例外なく「演じること」であって、それはいいとかわるいとかの問題じゃないし、真実か虚偽か、という問題でもないと思う。後者については、「フィクションでないような真実はない」という言葉もあります(誰の言葉だったか、失念。確か《エビステマー》で読んだ記憶あり)。

☆な—んてことを考えながら古本屋を覗いたら『別冊宝島・みんなの文章教室』という本が店頭に出て、定価860円が300円というのは嬉しい、と思って思わず買うとともに、この程度の「お得」で一日中気分が良くなってしまふ自分の貧乏性が情け無くもなるのであった。

収録されたジャンル別文章マニュアルには苦し紛れのものが多く、全体的にはいまイチであるが、《知っておきたい手紙のマナー(恋文編・遺書編)》というセクションには笑える。「手紙は、書かれた言葉を媒介として、きわめて演劇的に作用します」だの「手紙にはまだまださまざまな可能性があるはず」というフレーズにシンクロナイズしてしまう。

☆3月18日の《ラママ》でのコンサート。昔だったら《マイナー》とか《ぎゃてい》以外に出演できるライブスポットはなかっただろうな、と思わせる(と言って通じる人はアレです、アレ)バンドが4組：太陽肛門(アナクロイ)、少年Z(クサイ)、モルグアフター(微笑ましい)、YBO<sup>2</sup>(やかましい。しかし、なんでこれでイボイボと読めるのかしら。そもそもKYON<sup>2</sup>でキョンキョンってのが変だな—。括弧で囲んでから累乗するべきだよな)。総合評価1位は素直にラリーズしてた太陽肛門。話題のYBO<sup>2</sup>には、ドラムのテクに感心したのみ。それにしても、ライブスポットって高過ぎる。チャージ+ドリンクでどうやっても2,000円前後は取られるんだもん。知り合いが出てくるからといっても、頻繁には観に行けませんね、とても。雰囲気も厭だ。出演したいという気も起きない。

☆今月もいろいろ読んだけど、画期的だと思ったのは、『イメージ(原題“Ways of Seeing”)](ジョン・バージャー)と、『変体少女文字の研究』(山根一眞)の2冊。前者は、西欧美術(特に絵画)史を「見ることの制度史」として新たに捕らえ直す試みであり、資本主義の発達が芸術の表現や鑑賞の方法にどのような影響を与え続けてきたのか、少しも神秘主義に頼ることなく、その秘密が解明されていく。日本人としては異議を感じる部分もあるが、提示される問題は例外なく刺激的だ。併載された評論(訳者=伊藤俊治による)も、本文を補足する意味で有用。後者は、標題から予想されかねないキワモノ性とは無縁の、シリアスな研究レポート。いわゆる「丸字」について、僕は一時の流行だろう、と軽視していたんだけど、認識が変わった。著者の研究によればそれは大規模な文化的事件、起こるべくして起こった誰も止めることのできない歴史的運動、らしいのだ。2年掛かりの地道な調査に基づく統計データには説得力があり、ドキュメントの新たな可能性を予感させる。

以下、読んだ本の書名(面白かったもののみ)：『熱狂!GS凶鑑』(黒沢進)、『定本ジャックス』(高護・黒沢進)、『映像のトリック』(新藤健一)、『ことばとイメージ』(川本茂雄)、『パロトピア・カタログ』(橋本勝)。漫画では、『リードコミック』所載の読み切り『K』(谷口ジロー)、『別冊アクション』所載『ハード&ルーズ』シリーズ『聖バレンタインデー』(かわぐちかいじ)が、どちらも、クサイけれど衝撃的だった。

☆音版PE=PSE(パーソナル・サウンド・エフェクト)について。

知っている人は知ってますが、毎月25日を一応の締め切りとして、参加作品(原則としてカセットに録音したもの)を常時募集しています。翌月初旬完成をめどに、毎回、集まった作品を適当な長さのテープに編集し、参加者には実費で頒布します。内容はなんでも可(自作でなくても可)。市販する予定はありません。ダビング希望者は相当の空テープ+返送料相当の切手で申し込みください。

☆で、問合せもあったので、PSEのバックナンバーをお知らせします。

第1号(46分、'85.11)：作品提供者=倉本高弘、田島教夫、金野吉晃、荒井真一、大野由美子+今井隆、福本健修+乙部聖子、藤本和男、河合渉

第2号(30分、'85.12)：作品提供者=アミン、倉本高弘、大野由美子+今井隆、藤本和男、(匿名)、福本健修、乙部聖子、河合渉

第3号(46分、'86.1)：作品提供者=大野由美子+今井隆、乙部聖子、福本健修、金野万里、金野吉晃、鈴木健雄、倉本高弘、藤本和男、荒井真一

第4号(60分又は50分、'86.3)：作品提供者=大塚一弘、金野吉晃、福本健修、河合渉、藤本和男、乙部聖子

現在第5号を準備中(60分テープになりそうです)。

☆ほかにもいろいろあるけれど、以下次回。

食欲は有る(月経前になると飢鬼が憑いた様に異常食欲)けれど食べたら吐いてしまわないと落ちつかない状態が去年の一学期の期末テスト後のテスト休みから三学期のテスト後のテスト休み中の今までずっと毎日、続いてます。

チョコレートやアイスクリームは食べても大丈夫なんで三食間食の毎日です。学校にはお弁当持参し米を食べますが人目も有り吐きませんが...今はテスト休みだしこれから春休みなんで三食間食です。

でもまあ、たく米とかパンとか穀類が駄目というワケが全然ありませんが食事らしいものをとったときは食べているときはナンカエグツなく見境もなく憑かれて食べてますが食べおかわると落ち込みトイレで吐きます...

ゼリーとチョコレートとアイスクリームや果物は大丈夫です。お菓子はほとんど大丈夫だけれどケーキは見るとすごく食べたくなり食べますがやっぱ吐きます...今、家にショートケーキが12個あり朝、起きたらチョコレートの匂いかならず食べますがやっぱ吐いてしまおうでしょう...。

お百姓さんお母さんごめんね。なんで吐いちゃうんでしょうね。

3月11日。



僕も先日吐きました。酒のせいですが、車に乗っていて走りながら窓の中へ吐き捨てました。酒酔いとうとう記憶をなくします。その時のことを知りたくなさすぎるけれど知らないと余計落ち込みます。その日も同じことを繰り返して、今日も覚えていないなどと言ったことですが何も覚えていない。御迷惑をかけた皆様どうもすみません。

4月3日

3/9 ラジオ・ホームラン3周年記念パーティ。良くなる企画だったが、ジャンククのビデオと8mmが救い(?)。遅刻したのでディスカッションは見れず。この時期食欠の絶頂にあったので1,000は痛い。

3/18 太陽肌(うてな)渋谷ラ・マ。リハーサルの時点でどっど疲れが出てしまい本番の演奏ではギターが低調。思うように弾けなかった。P.A.ミキサーのつまみなども痛感。どんな音だろうが均質化されてしまう。電気の知識がまるで無いために音合わせもどかしい。ともかくバンドで20,000も稼いだのはYB2様様といったところで、グルペーをばらばら闊歩する北村昂土が往年の渋谷陽一を思わせ笑ってしまった。D'sレベルの佐藤君から話があったとまも随分迷って返事したのだが、今後こういう機会は少なくなるだろうな。と思う。いわゆるインディーズと呼ばれる連中には辟易しているというのが正直な感想。観に来てくれた人、どうもありがたう。

パンフレット「コケイン」にモデルガンの事を書いたら、けっこう反応があった。やっぱりアタリ趣味の典型ですな。いっせ続書きを書きたいと思ふ。多  
あまの音楽を聴くことも少なくなったが、それでも今月最も聴いたのはラリーズのライブテープと不矢者だった。恥ずかしい。60のサイケデリック・ロックが好きなおもてあててくれるだけでもなくて、'70前半のニュー・ヨーク・パンクが好きだ。ル・リードの「バルーン」は今でも良く聴く。あと今月はパティ・スミスとE.ドルフィン「ラスト・デイト」を聴いて過ごした。バンドの音が「ファン・ハウス」あたりのストウ・ジズに似てきたような気がする。

3/29(土)公民館運動。福本氏お疲れさまでした。5回めを教えて、顔ぶれもずいぶん変わってきたように思う反面しんどくなってきた感もある。霜田氏の言うような理由とは別に、実行委みたいなシステムを作る必要はあるように思う。難しいけど。今回も遅刻したので後半が観られなかったが、なかなか場違いのものもあって楽しめた(?)。向井さんもほとんどシララー化していて、毎回楽しみだが、Ché-Shizのの場合、やっぱり時間の短さが難になってしまう。演奏は良かった。特に最後の曲は可笑しかった(かこよかった)。

打ち上げ後、高田寺組は上野までしか行かず、途方に暮れながらも浅草で「クレージー・キャッツ3本立」のオールナイトを観て夜を明かした。劇場映画は久しぶりだったが、いやあおもしろかった。あ。ゲソさんはシリーズほとんど観ているらしいが、僕はクレージーよりはドリフの世代なのでキャップを感じた(笑)。思えば今月はゲソさんと会ったことが多く、家が近いとはいえ、訪問しては御馳走になっているので(そまなりの用事はあるのだが)気弱な僕としては恐縮しております。

3/30



